



IJF referee

Seminar Malaga 2014

Rules presentation

IJF ルール

2014-2016

テクニカルアセスメント

これらの事項は 2014 年 1 月 1 日に施行された IJF ルールに関する説明である

2015 年 IJF SOR

http://www.intjudo.eu/upload/2015_04/10/142867313633412800/2015_ijf_sor.pdf

2015 年 IJF 審判ルール

http://www.intjudo.eu/upload/2015_04/20/142952199282442702/2015_ijf_refereeing_rules_english.pdf

オリンピッククオリフィケーション期間はこのルールで統一する。

審判員

- ・ 試合場内の審判員は 1 名とする。
- ・ 2 名の副審はケアシステムと主審と通信するための無線を使用し、主審と IJF ジュリーとは中立の立場で審判をする。
- ・ 審判員ランキングリストが作成され、発表される。
- ・ 審判員リストは 3 つのカテゴリーに分けられ、審判員のカテゴリーは半年ごとに更新され変動する。

テクニカルアセスメント

・ 柔道衣コントロール	p 4
・ 一本	p 5
・ 転がるように投げた場合（ローリング）	p 5
・ ブリッジポジション	p 6
・ 有効（第 23 条）	p 7
・ 抑込（第 26 条）	p 8
・ 罰則	p 9
・ ゴールデンスコア	p 9
・ 待てー指導ーはじめ	p 10
・ 指導	p 11
・ 指導 標準的でない組手	P 12
・ 指導 標準的でない組手	p 13
・ 指導	p 13
・ 指導	p 14
・ 頭を下げた姿勢（ベンディング ポジション）	p 15
・ 片足、もしくは両足が場外	p 15
・ 指導	p 16
・ 自身の柔道衣（上衣）を使つての絞技	p 17
・ ベアハグ	p 18
・ 脚を絡ませるポジション	p 19
・ 河津掛 反則負け	p 20
・ 反則負け	p 21
・ 反則負けでない 有効なアクション	p 22
・ 関節技	p 23
・ 場内から始まったアクションが継続される場合	p 24
・ 肩三角グリップ	p 25
・ 寝姿勢の定義	p 26

IJF 柔道衣コントロール



↑・柔道衣コントロール（上衣）を受ける時の手のポジション



その他の詳細は、IJF SOR 附録 C P112を確認すること。

一本

一本の価値を高めるため、投技において畳に大きな衝撃を伴って背中が付いた時のみを一本とする。

転がるように投げた場合（ローリング）

大きな衝撃がなく、転がるように（ローリングしながら）落ちた（投げた）場合は、一本とはみなさない。

ブリッジポジション

ブリッジのポジションで着地した場合は、全て一本とみなす。



2015IJF SOR 20 項 P33

一方の選手が投げられた時に、故意にブリッジのポジション（頭と片足もしくは両足が畳に触れている）で着地した場合は全て一本とみなす。これは選手の安全を考えた決定である。こうすることで選手は、脊椎を危険にさらすような防ぎ方をしなくなる。また、ブリッジ（アーチの形）を試みることもなくなる。

有効（第 23 条）

投技で、コントロールしたうえで、相手の上半身体側が畳についた場合は有効とする。

①



②



③



④



①～④は有効。

⑤



⑥



⑦



⑧



⑤～⑧は有効ではない。

その他の詳細は 2015SOR、P34、第 23 項 A を確認すること。

抑込（第 26 条）

1. 抑込を施す場合、選手は袈裟、四方、もしくは裏のポジションであること。

すなわち、袈裟固、上四方固、裏固のようなポジションであること。

・裏ポジションは現在、技として有効である。

2. 抑込時間

・ 10 秒—有効 15 秒—技有 20 秒—一本



抑込（第 26 条）

・ 抑込が場内で宣告された場合、（両者が）場外に出ても抑込は継続される。

・ 場外で寝技（抑込）が施されている時に、受が返して継続性をもってそのまま前述の抑込の体勢になった場合その動きも技として有効とし抑込とする。

1. 白が場内で抑込

2. 青が鉄砲返しでそのまま袈裟固の体勢（抑込）

3. さらに白が鉄砲返しでそのまま袈裟固の体勢（抑込）

4. さらに青が鉄砲返しでそのまま袈裟固の体勢（抑込）

1～4 のアクションは全て有効である。



1

2

3

4

罰則

- ・ 1 試合に指導は 3 回までで、4 回目が与えられると反則負けになる。
- ・ 指導が与えられても相手のスコアにはならない。
- ・ スコアボードには技によるポイントしか表示されない。
- ・ 試合終了時に、両者が同等のスコア、もしくは両者ともにスコアがなかった場合、指導が少ない方が勝者となる。
- ・ ゴールデンスコアの場合、最初に指導が与えられた選手が敗者、もしくは最初にスコアを得た選手が勝者となる。



ゴールデンスコア

- ・ 時間無制限
- ・ 旗判定廃止
- ・ 最初のスコアもしくはペナルティによって勝敗が決する

待てー指導ーはじめ

- 主審は、選手が試合開始位置に戻らなくても、場内のどこでも指導を与えることができる。
- 待てー指導ーはじめ
(待てを宣告し、直ちに指導を与え、直ちにはじめを宣告する)
- 場外に出たため指導を与える場合は、例外とする(選手は試合開始位置に戻る)。
- バルコス氏出演のビデオを参照のこと

指導

1. 素早く組み合わなかったり、相手に組まれないような動作をした選手には厳しく指導を与える。
2. 一回の組み手の攻防で相手の組手を2回切った選手が、3回目に切った場合には指導を与える。
3. 相手の組み手を両手で切る



4. 相手に組手を持たせないために、襟をガードする。



指導 標準的でない組手

- ・クロスグリップや、標準的でない組手は直ちに攻撃しなければならない。
直ちに攻撃しない場合は、指導となる。
- ・帯を持つことや、片襟も同様とする。



指導 標準的でない組手

相手の柔道衣（裾）掴む→直ちに攻撃する。



指導



相手の手をブロックする



脚を使って相手の組み手を切る

指導

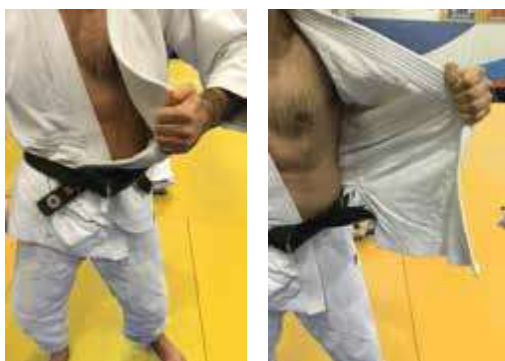


相手の腕や手を叩いて組手を切る



ポケットグリップ、ピストルグリップ、手首をロックする（握る）

・袖部分のピストルグリップやポケットグリップは直ちに攻撃をしない場合、指導が与えられる。



相手又は自らの柔道衣（裾部分）を帯から出す

ベンディングポジション

片腕もしくは両腕で相手を屈ませるような状態にさせ、直ちに攻撃をしない場合は、ブロックしている（相手に攻撃をさせない）ということで指導が与えられる。



片足、もしくは両足が試合場外

片足が場外に出ている場合、直ちに攻撃しない、もしくは直ちに場内に戻らない：指導



指導

青の選手が直ちに場内に戻らない、もしくは攻撃をしない場合、指導

指導

相手に押し出されて場外に出た場合、押し出した方に指導が与えられる

攻撃しているように見せかけても、実際は相手を投げる意思がないことが明らかな場合（偽装攻撃）

偽装攻撃の定義

- 取に投げる意思がない
- 取が組まずに攻撃する、もしくは技を掛けた直後に組み手を放す
- 受のバランスを崩すことなく、単発の技、もしくは繰り返し技をかける
- 取が受の両脚の間に脚を差し込んで攻撃を阻止する

自身の柔道衣の上衣を使っての絞技

- ・自身もしくは相手の上衣の裾、帯もしくは指だけで絞技を施すことは認められていない。
- ・この攻撃を行った場合、指導が与えられる。

第 25 条、ポイント 14 と 18 が遵守される。

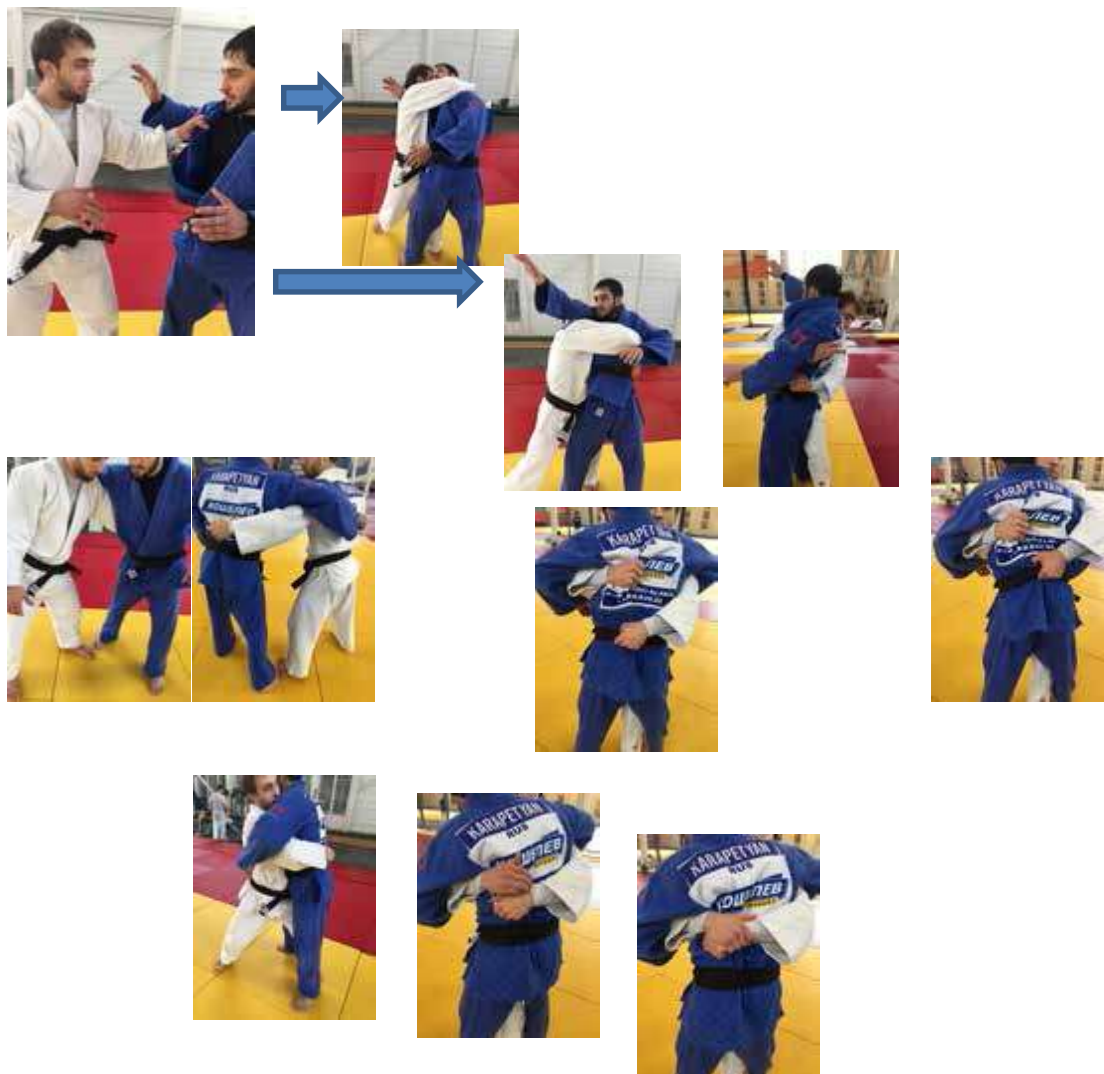


ベアハグ

- ・相手を投げるために抱きつくベアハグ=指導



ベアハグで攻撃したい場合は、(攻撃前に) 少なくとも片手は (相手の柔道衣を) 持っていること。



脚を絡ませるポジション

脚を絡ませる動作をした場合、直ちに攻撃しなければ、指導が与えられる。



河津掛一反則負け

- ・ 1) 河津掛を施すこと

(片足を相手の脚に巻きつけて、相手とおおよそ同じ方向を向き、相手を後ろ側に投げる行為)

- ・ 2) 肘以外の場所に関節技を施すこと



反則負け

立技で帯よりも下を片手または両方の手、腕で攻撃、防御する全ての行為は反則負けとなる



反則負けにならない場合（有効なアクション）

・両選手が立技から寝技に移行したことが明らかで、立技の動作が止まった場合に限り脚を掴んでもよい。



・取が両手でしっかりと組んで攻撃している場合、攻撃中に（取の腕が）受の脚に触れてもよい。



関節技

・場内で関節技・絞技がはじまり、その技の効果があると認識される場合、両者が場外に出ても継続させてよい。



絞技



場内から始まったアクションが継続される場合

・場外で終わった投技が一本ではなく、どちらか一方の選手が直ちに抑込、関節技、絞技に移行した場合、この技は認められる。



肩三角グリップ

寝技の場合、肩三角グリップを行ってもよい。



(立技で) 肩三角グリップ (を施した場合) は指導



※2016/1/29-30 に行われた IJF 審判&コーチセミナーにおいてこの場合は「待て」をかけることとなった。

肩三角グリップで投げようとした場合、反則負け



※2016/1/29-30 に行われた IJF 審判&コーチセミナーにおいてこの場合は「待て」をかけることとなった。「待て」を無視して投げた場合は「反則負け」となる見解が示された。

寝技において、脚でブロック (相手を固定) し肩三角グリップを施すことは、脊椎の安全のため禁止する。



*アキレス IJF 審判理事からのメールによる補足

この場合、審判は非常に注意深く、そして十分に早い段階で止めなければならない。

この場合 (早い段階で止めた場合)、ペナルティは与えない。

相手の脊椎を痛めようと故意に攻撃した印象を審判員が持った場合のみ、反則負けを与える。

寝技の定義

(これが「寝技の定義の全て」ではなく、「寝技の定義の一部」、寝技の定義の一例です。)
両選手の両膝が畳についている場合、寝技とみなす。



立技の流れが途絶え、両選手の両膝が畳についた場合



組み合わず、一方の選手の両膝がついた場合

腹ばいになった場合、青の選手は寝技



立ち技の流れが途絶え、一方の選手が腹ばいとなった場合

白が組み手をコントロールしている場合、青も依然立技の状態であると考える。

白は直ちに攻撃がすることが出来、(投げた場合は) スコアになる。

青は投げられるのを防ぐために腕を使って白の脚を掴むことはできない。脚をつかんだ場合は、反則負けとなる。

但し、白が直ちに攻撃しなかった場合、主審は「待て」を宣告する。



白が擬装攻撃をした場合も主審は「待て」を宣告する